

## 1. 3. 9 「本気の合唱づくり」

1. 対象学年 2、3年

2. 担当教員 原口 直 (音楽科)

### 3. テーマのねらい

合唱という音楽表現は、学芸的行事や音楽科の授業の中でなくてはならない手段である。本校においても、学芸的行事である芸術発表会の一部として学級対抗の合唱コンクールがおこなわれる。毎年どの学級も、各学年に一つ与えられる金賞を目標に練習に力を注いでいる。しかし、能力や熱意がありながら、外部のコンクールに出場するきっかけがなかった。

こういったことから、本テーマ研究では以下のようなねらいを設定した。

- ①NHK全国学校音楽コンクール出場の経験を通し、個々の音楽的な技能を上げる。
- ②他の学校を鑑賞したり、コンクールならではの技術を知ったりして、校内の活動に還元する。
- ③多言語の合唱曲に取り組み、合唱曲の幅を知る。

今年度は混声で3年生15名、2年生20名の計35名で開講した。3年生1名は、伴奏者を兼ねた。

## 4. 講座の内容

### (1) 概要

大きく二つの発表に向けて取り組んだ。一つ目は校外のNHK全国学校音楽コンクール、二つ目は校内のテーマ研究発表会である。それぞれの発表機会までの取り組みを紹介する。

#### ◆NHK全国学校音楽コンクール 東京都コンクール予選 (7月27日 府中芸術の森劇場)

〔女声三部〕課題曲 『Gifts』作詞：越智 志帆 (Superfly) 作曲：越智 志帆・蔦谷 好位置  
編曲：大田 桜子

〔女声三部〕自由曲 『夢みたものは』 (無伴奏) 作曲者：木下 牧子 作詞者：立原 道造

NHK全国学校音楽コンクールにむけた取り組みは本番までの5回の授業内容を検討した。このコンクールは校種ごとに定められた共通の課題曲と、制限のない自由曲とで審査される。経験上、本番まで5回の授業数は非常に少ない。回数と日程をどのように有効活用するか思案した。

また、自由曲において昨年の混声では伴奏付きの4部としていた曲を、無伴奏3部とした。理由は課題曲に合わせた人数構成上、自由曲も課題曲と同様に3部にするのが自然であったことがある。

第1回から第2回が約1ヶ月間の期間がある。これを有効に使うため、第2回の授業までに「課題曲を暗譜する」という課題を設けた。おのおのが楽譜を読んだり、範唱を聴いたり工夫をしながら暗譜に励んだ。教員の合格が出なければ何度も挑戦させ、合格者の数を公表してお互いの競争心をあおりながら、約1ヶ月を有効にすごした。生徒間で教えあいをしている光景は大変望ましく、合格者が出るにつれて教える側が増え、さらに合格者を増やす要因となった。

第2回目は初めての合唱練習でありながら、全員が暗譜した状態から練習を始めることができた。これはそれぞれが持つ既存の能力や技術の上に、興味や努力が成し得たものだと感じる。また、自由曲の選曲をおこなった。教員があらかじめしぼった3曲の中から、多数決で決定した。自由曲の選定基準は形式・構成が複雑でないこと、和音が響く箇所がわかりやすいこと、無伴奏であることとした。これはすべて授業回数に因るものである。

第2～5回の授業は旋律やリズムを正しく歌うことから曲想まで、短い時間で内容の濃い練習をおこなった。今年度は初めて和声にも触れた。自由曲の終止にある三和音について触れ、鳴っている4つの音が3つの音で構成されていることや、それらの和音の役割、根音を担うパートについて説明した。楽譜の読めない生徒には少々難しかったようだったが、頭だけでなく音を実際に出して耳や体で三和音を理解する機会を設けたことは、有効だったと思う。また、本番前に半日の練習を2日間おこなった。コンクール特有の気持ちの持ちようやステージング（出はけ、配置、所作）をていねいにおこなった。他校との関わりが部活等であまりない本校において、多くの学校が集まるというだけで平常心が保てない。なるべく具体的にイメージをさせることで、当日の不安を払拭するよう心がけた。

本番はその日最後の出番であり、ゆとりを持って他校の演奏を鑑賞できた。特に全国レベルの女声



合唱はその実力と意欲の高さに圧倒され、他校の合唱をほとんど聴いたことのない生徒にとってはいい刺激になった。リハーサル室では緊張感の中にも、賞や伝統といった重圧もなくのびのびとした雰囲気であった。しかし、目標の入賞に及ばなかったりして、悔やんでいる生徒も見られた。

#### ◆テーマ研究発表会（11月9日 本校体育館）

〔2年生〕『WINDING ROAD』伴奏：2年生徒

作詞：絢香・小淵健太郎・黒田俊介 作曲：絢香・小淵健太郎・黒田俊介

〔3年生〕『どこまでも～How Far I'll Go～』 伴奏：3年生徒

作詞・作曲：Lin-Manuel Miranda 日本語詞：高橋知伽江

〔全 員〕『This Is Me』伴奏：3年生徒

作詞・作曲：Benj Pasek・Justin Paul

選曲の際は、まず学年ごとに取り組み曲を決めた。毎年、授業者の選んだ合唱曲集（ジブリヤア・カペラ曲）の中の数曲から選ばせたり、あらかじめ授業者が1曲を決めて提案する方法を取ったりして、ある程度制限を設けて選曲させていたが今回は生徒にゆだねた。現在は選曲の際に、既知の曲や楽譜のある曲からではなく、動画配信サイト等から選び出す。つまり、選曲の分母は無限にある。過去2年間の発表会を見てきているので、どのような曲が観客に求められているか、喜ばれるか、準備が間に合うか等をわかった状態で選曲を始めた。結果、2年生はJポップ、3年生はディズニー映画の女声三部合唱となった。

学年ごとの選曲を終えた上で、全体曲を選曲した。生徒には意見を聴いた上で、授業者が選曲をした。外国語曲ということは毎年決めていたため、女声が生きる曲を考えた。また、ステージを作り上げるという演出も考慮し、本年最も流行したミュージカル『The Greatest Showman』から選んだ。各所にはソロパートを設け、2・3年生の立候補者に振り分けた。



(2) 授業日程：今年度は、2回の本番、10回の授業を実施した。

回数	主な学習予定
1	Nコンにむけて①ガイダンス、幹部決め、楽譜配布、音取り、課題提示
2	Nコンにむけて②課題曲スキル向上・アナリーゼ（楽曲分析）
3	自由曲決め
4	Nコンにむけて③課題曲・自由曲 ハーモニーづくり
5	Nコンにむけて④課題曲・自由曲 表現を深める
	NHK全国学校音楽コンクール東京都コンクール予選
6	発表会にむけて①ガイダンス、楽譜配布
7	発表会にむけて②スキル向上・アナリーゼ（楽曲分析）
8	発表会にむけて③ハーモニーづくり
9	発表会にむけて④表現を深める、仕上げ
10	発表会にむけて⑤表現を深める、仕上げ
	テーマ研究発表会準備
	テーマ研究発表会
	まとめ 自己分析

## 5. 学習の成果

この研究を通して、生徒は大きく2つの発見があったと思う。

一つ目は、合唱に関わる他校との発見である。他校の合唱団体の演奏を肌で感じる事ができた。演奏のレベル、人数、パートバランス、多彩な自由曲、隊列の組み方、曲ごとに入れ替わるメンバー、客席の雰囲気、背負っている物など、実に多種多様な中学校を鑑賞し、自らが置かれている環境と比較ができたと感じる。

二つ目の発見は合唱曲である。校内のコンクールでは、ある程度固定された曲集や知識の中から選曲され歌ったり鑑賞したりする。しかし、今回の研究の中で外国語、宗教曲、文学的な詩を持つ曲、他校が歌う曲などに出会うことができたのは今後に生かされると考える。

## 6. 学習の課題

昨年度までの課題であった和声の分析の導入をさらに深めていきたい。限られた時間でどこまで踏み込めるか、受講した生徒や曲と向き合って検討したい。また、校内コンクールへの還元は発声等の技術だけでなく、ステージングの意識を広く持たせられた。さらに、生徒からは専門的な発声法にもっと触れたいという言葉もあったため、次年度に活かしたい。

本講座は3年生が中心のため、1代限りである。ここでの経験を次につなげるには、高校などの進学先で活かすしかない。卒業生が高校で合唱を続けているように、この代でもすでに高校で合唱を続けると決意している生徒もいる。生涯学習として合唱を位置づけてほしい。